

# けいはんな学研都市第5期ステージプラン～ポスト万博シティけいはんな～（骨子）

## はじめに ～本ステージプラン策定の目的～

■けいはんな学研都市は、ポスト万博シティとしての役割を受け、新機軸として、実証都市としての強み等をさらに発展させ、研究成果を早期に社会実装していくことで、都市の建設を主とするステージから研究成果等の活用・拡大を図っていくステージへの進化が求められている。その役割を果たしていくため、次の10年に向けたステージプランを策定する。

## 第1章 けいはんな学研都市の現状と成果

### 1) 現行ステージプランの課題

- 学研都市内外の歴史文化拠点との連携・交流をさらに促進し、伝統文化に科学技術を融合した新たな文化の創出・発信
- 学術研究の強化と成果をいち早く都市や生活に実装する仕組みや場づくり
- 母都市との公共アクセスの強化と都市内での新たなモビリティの実現
- 未整備クラスターの早期整備と地域特性に応じた機能の計画的な導入。モビリティ整備と合わせ既存の集積との相乗効果を図る
- 国内外におけるけいはんな学研都市の知名度向上
- 都市全体を牽引し、強みを活かすビジョン、施策、これらを実施する都市運営の核づくり

### 2) 学研都市の現状への評価

#### (立地機関等から見たけいはんな学研都市)

けいはんな学研都市に立地する企業研究機関等にけいはんな学研都市に立地して良かった点や今後期待すること等についてアンケートを実施（回答率85%）

- 91%が「立地して良かった」と回答
- 評価が高い点は、「他の企業研究所等の交流機会があった」「税制優遇が得られた」「景観・商業施設など周辺環境が良好」「高度人材の確保育成が有利」等
- 今後期待する主な意見は、「交通利便性の強化や道路網の整備」、「他の企業研究所等との交流機会の増加や研究情報の提供機会」等

### 3) けいはんな万博の取組と成果

大阪関西万博と連携してけいはんな万博を実施、「未来社会への貢献～次世代への解～」をテーマに、2024年にプレイベント、2025年4月～10月にけいはんな学研都市の強みをアピールする4つのフェスティバルを展開、74イベントで約20万人超が参加

- 市町を横断的に実施。73の参画団体が一つのテーマで取組、顔が見える組織を越えたネットワーク構築
- 市民や都市内店舗・企業も参加して都市全体が実証フィールドであることを検証
- 100件以上の新聞テレビ等、多くのメディアが期間中に報道、知名度向上に寄与
- 若い世代が、自らの未来社会をデザイン、けいはんなの未来像を若者が提言発信  
これらの成果に基づきR8年1月に「けいはんな宣言」を発出、多様な人々が交流・連携・共創し、科学技術の実装により希望とウェルビーイングに満ちあふれた未来を目指すとした。これを包含する新しい都市像や取組を検討

## 第2章 時代潮流

### 1) 科学技術と産業・経済に係る潮流

- 第7期科学技術イノベーション基本計画では研究力・研究環境、人材、イノベーション（スタートアップ）、国際、研究開発投資が課題。科学とビジネスの近接化が世界的な潮流。成長戦略では「危機管理投資」・「成長投資」による強い経済の実現と分野横断的課題への対応が検討されている

### 2) 国土の経営に係る潮流

- 国土交通省白書では担い手不足等に対し、労働環境の改善、省力化ための新技術の利活用等の取組が加速していくと考えられている
- 地域の稼ぐ力の強化や個性ある都市の実現の考えの下、都市再生特別措置法等の改正案が審議されている

### 3) 地方創生に係る潮流

- 地方創生2.0では、各地域が有する文化・産業等の強みを最大限活かす「シームレスな拠点連結型国土」の実現のため、広域地方計画の策定を推進していくとされている

### 4) ウェルビーイングに係る潮流

- 国の「骨太方針2025」では、国民一人一人にとって、ウェルビーイングの高い、豊かさ、安心・安全、自由、自分らしさを実感できる活力ある経済社会を構築するとされている。

## 第3章 ポスト万博に向けた推進

国の大阪・関西万博のアクションプランに、けいはんな学研都市がポスト万博シティとして位置付けられたことにより、第5ステージプランの新機軸として反映

### 1) ポスト万博シティの位置付け

- けいはんな学研都市は、多様な研究機関の集積や実証都市としての実績などから、国の大阪・関西万博アクションプランにおいて、万博を一過性のイベントとせず、万博で得られた成果を関西や日本の発展に結びつけるという課題認識のもと、万博の活動を拡大継承可能なポテンシャルを有する地域として位置付けられた

### 2) ポスト万博シティの推進

- 位置付けを受け、けいはんな学研都市は、研究成果を現実社会に活用し、持続的に発展させて、都市全体が関西や日本の発展へ貢献できるよう取組むこととし、関西圏の他の拠点、特に夢洲とけいはんな学研都市を結び東西軸を中心に大阪公立大学森の宮キャンパスなど各拠点との広域的な交流連携を深め、ポスト万博シティとして本都市内外で未来を先導していく役割を果たしていく

### 3) 共創会議提言

- 大学・研究機関の共創会議において、ポスト万博シティの理念的な柱を検討し提言にまとめた

## 第4章 第5期ステージプランのビジョン

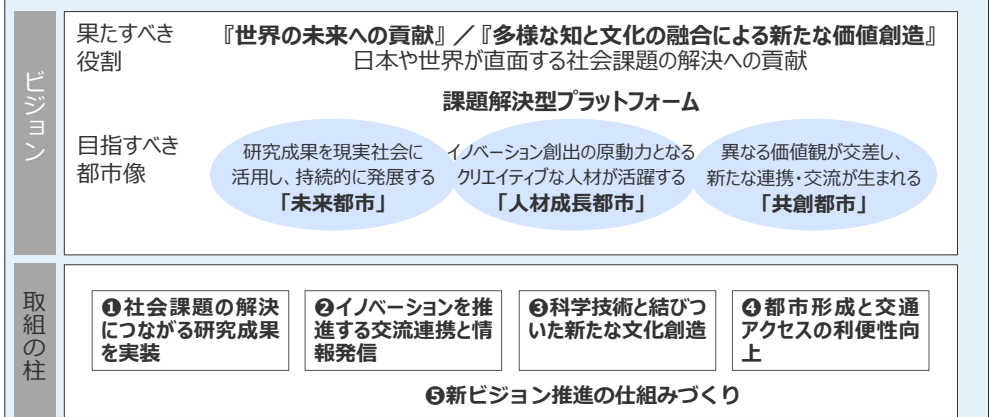
### 1) 本都市が果たす役割

これまでのけいはんな学研都市の理念を継承し

- 人類の平和的・持続的共存に向けた先端的な科学技術の進歩を担うとともに、成果の実装化等を通して、社会の変革に役立てていく「世界の未来への貢献」
- 都市生活のあり方に焦点をあて、研究者や住民の知により新たな価値、文化や生活像を生み出していく「多様な知と文化の融合による新たな価値創造」という2つの役割を果たし、日本や世界が直面する社会課題解決へ貢献する

### 2) 目指すべき都市像

本都市が果たす役割やポスト万博シティの提言を踏まえ、目指すべき都市像を3つ設定



『世界の未来への貢献』 / 『多様な知と文化の融合による新たな価値創造』

日本や世界が直面する社会課題の解決への貢献

目指すべき都市像

研究成果を現実社会に  
活用し、持続的に発展する  
「未来都市」

イノベーション創出の原動力  
となるクリエイティブな人材  
が活躍する  
「人材成長都市」

異なる価値観が交差し、  
新たな連携・交流が生まれる  
「共創都市」

第5章 ビジョン実現に向けた取組

5-1  
社会課題の解決につながる  
研究成果を実装

東西軸を中心とする他の  
拠点等とも連携しながら、  
迅速な実証・実装等を  
進めます

- (1) 関西の成長に寄与する東西軸等の他の拠点との広域連携（東西軸を中心とする他の拠点と連携、実証フィールドの機能強化、グレーター学研都市：成果の実装化へエリア・機能の拡張）
- (2) 産学公住連携機能（エコシステム等）の形成（「大学・研究機関」共創会議や大学、研究機関等の連携拡大による研究開発の核づくり、サイバーセキュリティ拠点構築）
- (3) 研究成果の迅速な社会実装（ロボット等強み分野の育成、Clubけいはんな活用、実装化エリア新設による規制緩和・税制優遇、実証・実装環境の整備、支援機関の強化）
- (4) スタートアップ育成（世界とのつながり拡大、アクセラレーター機能強化、経営人材・ファイナンス機能の誘致）
- (5) 特徴あるクラスター整備（フードテック等のテーマ設定による特徴づけ）
- (6) 研究成果を実装する生産施設の導入（学術研究との一体性や地区の特性に応じたあり方検討の上導入）

5-2  
イノベーションを推進する  
交流連携と情報発信

けいはんな万博の成果  
を活用し、多様な主体  
が交流するコモンズを  
形成し、オープンイ  
ノベーションを生み出  
します

- (1) 大学・研究機関の共創ネットワーク化（大学、研究機関等が組織の壁を越えて研究や教育ができる連携の仕組みづくり）
- (2) 研究のデジタル化・自動化とデータ共有によるオープンイノベーションの推進（大学・研究機関の連携によるデータ共有、AIの活用による研究開発の効率化）
- (3) 多様な人材の成長（若年層の多様な学びの機会の提供、海外人材の受入れ・交流、シニア層の活用等人材のダイバーシティ）
- (4) 関西の成長に寄与する東西軸等の他の拠点との広域連携（5-1の再掲、研究シーズの情報交流）
- (5) 関係機関連携を促進する場づくり（多様な主体が交流できる「コモンズ」づくり）
- (6) 国際交流、海外研究者、長期滞在者の受入れ環境整備（国際会議の誘致、留学生の定着、海外研究者のための環境整備と交流イベント）
- (7) けいはんな万博のレガシー活用（けいはんな万博の成果を受継ぎ、発展させる交流の推進）
- (8) けいはんな学研都市の魅力発信とブランディング（歴史文化資産と先端技術が融合した伝統と未来が共存する都市としての魅力を発信）

5-3  
科学技術と結びついた新た  
な文化創造

科学技術等を活かした  
新たな文化を創造します

- (1) 科学技術とアート等の融合（科学技術とアートの親和性を活用、体験型学習、人文社会系と自然科学を融合したけいはんなならではの情報発信、地元食・文化遺産の活用、アーティストの活動促進、メディア芸術拠点の誘致）
- (2) AI技術等の開発における日本文化の伝承と発信（AIやコミュニケーション等技術蓄積及び歴史文化資源を活用したソフトコンテンツの発信）

5-4  
都市形成と交通アクセスの  
利便性向上

都市内外の交通アクセス  
を整備します

- (1) 母都市とクラスター間の公共交通強化など都市内外の対流を促進するモビリティの向上（国土軸との接続、母都市・クラスター間のアクセス向上：京阪奈新線や国道163号整備、次世代モビリティの活用、レベル4自動運転導入、交通商社設立）
- (2) 未整備クラスターの整備（既存クラスターとの連携）
- (3) 世界に先駆けスマートな暮らしを育むまちづくり
- (4) 世界に誇る歴史や文化、自然の息づくまちづくり

5-5  
新ビジョン推進の仕組みづ  
くり

推進体制の見直し等により、  
新ビジョン  
の実現を推進していきます

- (1) ネットワーク型都市運営等の推進力の強化（中核的機関の組織体制強化）
- (2) 税制優遇、規制緩和策等検討（都市建設から活用までを視野に入れた制度・施策の再構築の検討）